

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
若林 繁夫			
金4			
添付ファイル			

科目の概要	現在の医療において、さまざまな疾患・症状に対して薬物治療を行うことは避けては通れない治療方針になっている。近年我が国において、立て続けにノーベル医学・生理学賞受賞者が生まれ、新しい概念に基づく医薬品開発につながる成果が発表されている。看護師として、これまで開発されてきた薬物に加えて、将来の医療現場では新しい医薬品に対しても相応の知識を身につける必要がある。疾患に対するさまざまな薬物の効果や作用機序についての知識を得るため、「臨床薬理学」を講義する。
授業の内容	<p>第1回 薬理学を学ぶにあたって (第1章) 薬物とは何か、どのように開発されるのかなど、薬理学を学ぶための心構えについて学ぶ。その後、医薬品開発における生物資源をめぐる国際問題について描いたDVD「夢の新薬が作れない～生物資源をめぐる闘い～」を視聴する。</p> <p>第2回 薬理学の基礎知識-1 (第2章) 薬理学の基礎知識として、薬物の標的・体内動態・薬物相互作用などについて学ぶ。</p> <p>第3回 薬理学の基礎知識-2 (第2章) 前回に引き続き、薬物の標的・体内動態・薬物相互作用などについて学ぶ。</p> <p>第4回 抗感染症薬 (第3章) ウイルス、細菌、真菌の違いを理解し、それぞれの感染症に対する薬物について学ぶ。</p> <p>第5回 抗がん薬 (第4章) 抗がん薬の種類とそれらの副作用、さらに有望とされている分子標的薬についても学ぶ。</p> <p>第6回 免疫治療薬 (第5章) まず免疫の仕組みについて理解したあとで、免疫抑制薬・免疫増強薬などについて学ぶ。</p> <p>第7回 抗アレルギー薬・抗炎症薬 (第6章) アレルギーおよび炎症反応について理解したうえで、抗ヒスタミン薬やステロイド性・非ステロイド性抗炎症薬について学ぶ。</p> <p>第8回 末梢神経活動に作用する薬物 (第7章) まず神経伝達のしくみを理解する。そのうえで主として受容体に作用するさまざまな薬物について学ぶ。</p> <p>第9回 中枢神経系に作用する薬物 (第8章) 中枢神経系の構造と機能を理解したうえで、麻酔薬・睡眠薬・抗精神病薬などについて学ぶ。</p> <p>第10回 薬物の乱用 (第8章、他) 麻酔性鎮痛薬や合成麻薬などの種類と効能を学び、これらの乱用を防ぐための注意点について理解する。</p> <p>第11回 循環器系に作用する薬物-1 (第9章) まず循環器系の構造・機能について理解する。そのうえで降圧薬、狭心症・心不全・不整脈などの疾患に対する薬物の種類とその作用機序について学ぶ。</p> <p>第12回 循環器系に作用する薬物-2 (第9章) 前回に続いて、循環器系疾患の治療薬について学ぶ。</p> <p>第13回 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 (第10章) 呼吸器・消化器・生殖器の解剖生理学的な知識を踏まえながら、これらの疾患に作用する薬物の種類とその作用機序について学ぶ。</p> <p>第14回 物質代謝に作用する薬物 (第11章) まず内分泌系についての概略を理解する。そのうえで糖尿病・甲状腺疾患などの薬物について学ぶ。</p> <p>第15回 その他の薬物 (第12～15章、付章) 皮膚科・眼科用薬物、さらに救急用薬物、消毒薬、漢方薬、輸液製剤、輸血剤について学ぶ。</p> <p>定期試験</p>
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまで学習した「疾病の成り立ち」や「解剖生理学」に関する知識を前提に、「なぜ薬物がそれらの疾病に対して効果があるのか？」を理解し、説明できるようにする。</li> <li>2. 臨床的に頻繁に使用される薬物に関しては、その名称・作用機序・副作用などを記憶すること。</li> </ol>
授業の方法	<p>【授業形態】 資料を配布し、パワーポイントと板書を用いた、講義形式で行う。</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 毎回、講義内容の理解を確かめるために、講義中に出てくるキーワードを書かせたり、小テストを行う。それらを出席カードとともに提出してもらおう。また、できる限り学生に授業中に発言させるようにしたい。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 対面授業ができない場合には録画授業を行い、Streamを用いて履修者に発信する。情報はA-portalを利用して発信する。</p>

	【その他特記事項】昨年度と同様に、小テストの他に毎回自習用の問題集を配布する。
成績評価の方法	【評価項目】定期試験の成績、毎回の講義の平常点（小テストなど）によって評価する。 【割合】定期試験の成績：80%、平常点：20%。
教科書・テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 「薬理学」 医学書院
参考書	講義の中で、必要に応じて紹介する
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	各自、自分のノートを作ること。講義を受けた後で、主として教科書を用いて、関連する内容を自分でまとめること。毎回配布する問題と取り組むこと。
履修上の留意事項	教科書、各自の科目別ノート、筆記用具は毎回忘れずに持参すること。
オフィスアワー	出講日（水曜日、木曜日、金曜日）の講義などの予定が入っていない時間帯
課題に対するフィードバックの方法	小テストや試験の結果について質問があればオフィスアワーで返答する。
実務経験	医学・生理学研究、40年間の勤務実績
その他	